



明知鉄道株式会社

Aketetsu Railway

明知鉄道は昭和60年11月16日に国鉄明智線を引き継いで第三セクター方式で開業した地方鉄道です。

岐阜県恵那市(中央線恵那駅)を起点に、中津川市阿木を經由し、日本大正村で有名になった明智町に至る東美濃地方の高原地帯を縫って南下する25.1kmの路線です。

沿線には多目的ロックフィル式の阿木川ダムをはじめ、800年余の歴史を秘めた岩村城跡や寒天料理のヘルシーハウス山岡、花白温泉、そして大正のロマンを今に伝える日本大正村など四季を通じて「みどころ」は豊富です。「人を輸送する」という本来の役割だけでなく、地域住民の交流の場として、また、各地の観光要所を結ぶ橋渡し役として文化的にも大切な役割を担っています。

-概要-

1. 営業範囲…旅客運輸事業および付帯関連事業
2. 営業線名、営業キロおよび駅数…恵那駅～明知駅 25.1km 11駅(有人駅-3駅、無人駅-8駅)
3. 他線との接続状況…JR中央本線・恵那駅
4. 列車本数…恵那駅～明知駅間
【平日】14往復(旅客)【土休日】13往復(旅客)
5. 配備車両…DC(アケチ型)6両 定員94人/両(座席44人、立席50人)
6. 運転方式…特殊自動閉そく方式

所在地 〒509-7705 岐阜県恵那市明智町469-4
TEL 0573-54-4101
URL <http://www.aketetsu.co.jp/>

明知鉄道沿線地域公共交通活性化協議会

事務局 恵那市商工観光課 TEL 0573-26-2111(代)



明知線の歩み

大正11年の改正鉄道法で「静岡県掛川ヨリ二俣、愛知県大野、静岡県浦川、愛知県武節ヲ経テ、岐阜県大井ニ至ル鉄道」が予定線として決定し、その第一段階として大井-明知間の敷設が具体化され、昭和4年着工、同10年完成と決定された。

紆余曲折を経て昭和6年東野駅建設予定地で竣工を迎えた。大井-阿木間は昭和8年に、阿木-岩村間は昭和9年1月に、岩村-明知間は同年6月に開通し、明知線は前線開通となった。

明知線は、1000分の33という急こう配と、半径200メートルのカーブが連続する路線で開業当初から軽量で短軀のC12蒸気機関車が客車と貨車をつないだ混合列車をけん引した。昭和33年からディーゼルカーが登場すると、蒸気機関車は昭和48年10月に姿を消すこととなった。

モータリゼーションの進展により鉄道の乗客数は減少の一途をたどり、国鉄の赤字が増えるばかりで、昭和55年の国鉄再建法が成立すると、明知線は国鉄から切り離された。

明知線は第3セクターの明知鉄道(株)として昭和56年11月16日再出発した。

監修 荒巻克彦 執筆 渡利正彦「明知線の60年-25kmの沿線に秘められた感動のドラマ-」郷土出版社より



野田トンネルを抜け阿木駅へ S47.8.21 荒巻克彦「明知線と蒸気機関車」より